

国際学部 入学前指導 読書レポート課題図書一覧

宇都宮大学国際学部編『多文化共生をどう捉えるか』（下野新聞新書、2018）（本書は入学後、必修授業科目「新入生セミナー」で使用します。）

宇都宮大学国際学部編『世界を見るための38講』（下野新聞新書、2014）

<学問・教養>

内田樹編・岡田憲治他『転換期を生きるきみたちへ』（晶文社、2016）

清水真木『これが「教養」だ』（新潮新書、2010）

田巻松雄『未来を拓くあなたへ―「共に生きる社会」を考えるための10章』（下野新聞新書、2017）

山口昌男『学問の春―知と遊びの10講義』（平凡社新書、2009）

<言語・語学・翻訳>

庵功雄『やさしい日本語―多文化共生社会へ』（岩波新書、2016）

今井むつみ『ことばと思考』（岩波新書、2010）

大津由紀雄『英語学習7つの誤解』（生活人新書229、2007）

金田一春彦『日本語 新版』（上・下）（岩波新書、1988）

白井恭弘『外国語学習の科学―第二言語習得論とは何か』（岩波新書、2008）

白井恭弘『ことばの力学―応用言語学への招待―』（岩波新書、2013）

菅原克也『英語と日本語のあいだ』（講談社現代新書、2011）

鈴木孝夫『日本人はなぜ英語ができないか』（岩波新書、1999）

塩田勉『おじさん、語学する』（集英社新書、2001）

鳥飼久美子『国際共通語としての英語』（講談社現代新書、2011）

西村義樹・野矢茂樹『言語学の教室―哲学者と学ぶ認知言語学』（中公新書、2013）

町田健『言語世界地図』（新潮新書、2008）

丸山眞男・加藤周一『翻訳と日本の近代』（岩波新書、1998）

<哲学・思想>

イヴァン・イリイチ著、渡辺京二・渡辺梨佐訳『コンヴィヴィアリティのための道具』（ちくま学芸文庫、2015）

内田樹『寝ながら学べる構造主義』（文春新書、2002）

小松裕『田中正造―未来を紡ぐ思想人』（岩波書店、2013年）

<歴史・民族>

阿部謹也『「世間」とは何か』（講談社現代新書、1995）

E. H. カー著、清水幾太郎訳『歴史とは何か』（岩波新書、1962）

内堀基光、山下晋司『死の人類学』（講談社学術文庫、2006）

吉見俊哉『ポスト戦後社会―シリーズ日本近現代史〈9〉』（岩波新書、2009）

若林正丈『台湾―変容し躊躇するアイデンティティ』（ちくま新書、2001）

<芸術・美術>

高階秀爾『名画を見る眼』（岩波新書、1969）

高橋裕子『イギリス美術』（岩波新書、1989）

<政治・外交>

- アマルティア・セン著、東郷えりか訳『人間の安全保障』（集英社新書、2006）
高坂正堯『国際政治—恐怖と希望』（中公新書、1966）
布施祐仁『経済的徴兵制』（集英社新書、2015）
ブライアン・アークハートほか著、光橋翠訳『世界平和への冒険旅行—ダグ・ハマーショルドと国連の未来』（新評論、2013）
水島治郎『ポピュリズムとは何か』（中公新書、2016）

<社会・文化>

- 青木保『「文化力」の時代—21世紀のアジアと日本』（岩波書店、2011）
アンドレア・センブリーニ著、三浦信孝・長谷川秀樹訳『多文化主義とは何か』（文庫クセジュ、2003）
伊藤元重・矢嶋孝敏『きもの文化と日本』（日経プレミアシリーズ、2016）
齋藤希史『漢文脈と近代日本—もう一つの言葉の世界』（日本放送出版会、2007）
田中克彦『ことばと国家』（岩波新書、1981）
中根千絵『タテ社会の人間関係』（講談社現代新書、1967）
広井良典『コミュニティを問いなおす』（ちくま新書、2009）
好井裕明『「あたりまえ」を疑う社会学—質的調査のセンス（光文社新書、2006）
好井裕明編『排除と差別の社会学』（有斐閣選書、2009）
渡辺靖『<文化>を捉え直す—カルチュラル・セキュリティの発想』（岩波新書、2015）

<教育・心理・コミュニケーション>

- 小玉重夫『学力幻想』（ちくま新書、2013）
橋木俊詔『日本の教育格差』（岩波新書、2010）
山鳥重『「わかる」とはどういうことか—認識の脳科学』（ちくま新書、2002）
ダニエル・カーネマン著、村井章子訳『ファスト&スロー—あなたの意志はどのように決まるか？』（上・下）（ハヤカワ・ノンフィクション文庫、2014）

<地球社会・国際協力>

- アマルティア・セン著、大石りら訳『貧困の克服』（集英社新書、2002）
池田香代子、C.ダグラス・ラミス『世界がもし100人の村だったら(お金編)』（マガジンハウス 2017）
伊勢崎賢治『国際貢献のウソ』（ちくまプリマー新書、2010）
西あい・湯本浩之編『グローバル時代の「開発」を考える—世界と関わり、共に生きるための7つのヒント』（明石書店、2017）
西川潤『データブック 食料』（岩波ブックレット No.737）（岩波書店、2008）
西川潤『データブック 貧困』（岩波ブックレット No.730）（岩波書店、2008）
墓田桂『難民問題』（中公新書、2016）

<科学・環境>

- 平川秀幸『科学は誰のものか—社会の側から問い直す』（NHK 出版生活人新書、2010）
吉田千亜『ルポ 母子避難—消されゆく原発事故被害者』（岩波書店、2016）

<アメリカ・中東・アフリカ>

- 池内恵『イスラーム国の衝撃』（文春文庫、2015）
石田洋子『アフリカに見捨てられる日本』（創成社、2008）
遠藤貢ほか編『東大塾 社会人のための現代アフリカ講義』（東京大学出版会、2017）
大治朋子『勝てないアメリカ—「対テロ戦争」の日常』（岩波新書、2012）
酒井啓子『<中東>の考え方』（講談社現代新書、2010）
児玉実英『アメリカのジャポニズム』（中公新書、1995）

<ジェンダー>

- 上野千鶴子『女ぎらいー日本のミソジニー』（朝日文庫、2018）
い・ミンギョン著、すんみ・小山内園子訳『私たちにはことばが必要だーフェミニストは黙らない』（タバブックス、2018）
前田健太郎『女性のいない民主主義』（岩波新書、2019）
ケイト・マン著・小川芳範訳『ひれふせ、女たちーミソジニーの論理』（慶応義塾大学出版会、2019）
治部れんげ『男女格差後進国の衝撃ー無意識のジェンダー・バイアスを克服する』小学館新書、2020）
太田啓子『これからの男の子たちへー「男らしさ」から自由になるためのレッスン』（大月書店、2020）

<文学>

- アルベール・カミュ著、宮崎嶺雄訳『ペスト』（新潮文庫、1969）
村田沙耶香『コンビニ人間』（文春文庫、2016）
柳美里『JR上野駅公園口』（河出文庫、2017）
チョ・ナムジュ著、斎藤真理子訳『82年生生まれ、キム・ジョン』（筑摩書房、2018）
ジェイ・ルービン編 村上春樹序『ペンギン・ブックスが選んだ日本の名短編 29』（新潮社、2019）